

水防に関する情報提供

国土交通省 四国地方整備局

高知河川国道事務所

令和4年5月

洪水に関する新たな情報提供（物部川・仁淀川）

1 洪水の危険度の見通し（半日程度先まで）

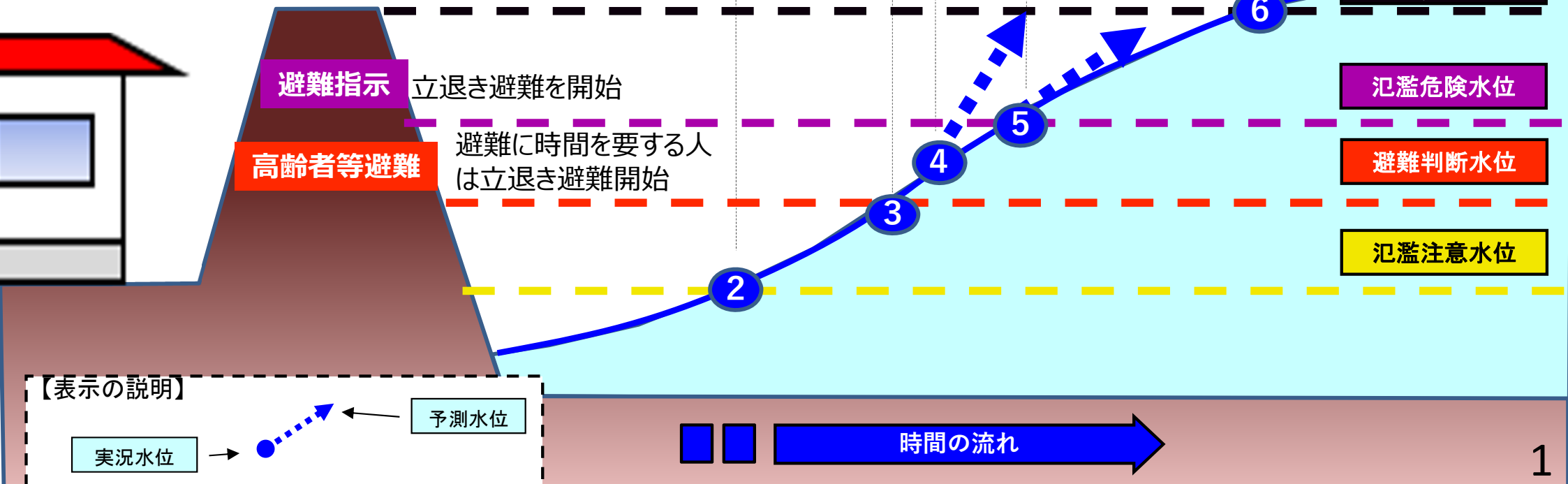
水位予測（6時間先まで）

- 過去の主要洪水に匹敵する降雨等が予測される場合に情報提供開始
- 洪水中はWeb会議で見通しを説明

追加

3時間以内に氾濫危険水位への到達を予測した場合、氾濫危険情報（避難指示の目安）を発表

物部川	氾濫危険水位（無堤）4.25mを超過したのは		（参考）最高水位
	流域平均雨量（12時間累積）が次に達した後	永瀬ダム放流量が次に達した1時間後	
S45.8	323mm	1,709m ³ /s	4.31m
S47.7	295mm	1,552m ³ /s	4.70m
H30.7	291mm	1,985m ³ /s	4.52m



【表示の説明】

実況水位

予測水位

時間の流れ

国が行う洪水予報の氾濫危険情報の発表前倒しについて

- 現在、国管理河川の指定河川洪水予報では、氾濫危険水位※¹に到達したときに氾濫危険情報を発表している。

※¹ 洪水により、相当の家屋浸水等の被害を生じる氾濫のおそれがある水位

- 今般、基準地点において、**氾濫する可能性のある水位**※²に3時間先までに到達する見込みの場合は、予測に基づいて氾濫危険情報を発表できるよう運用を改善する。

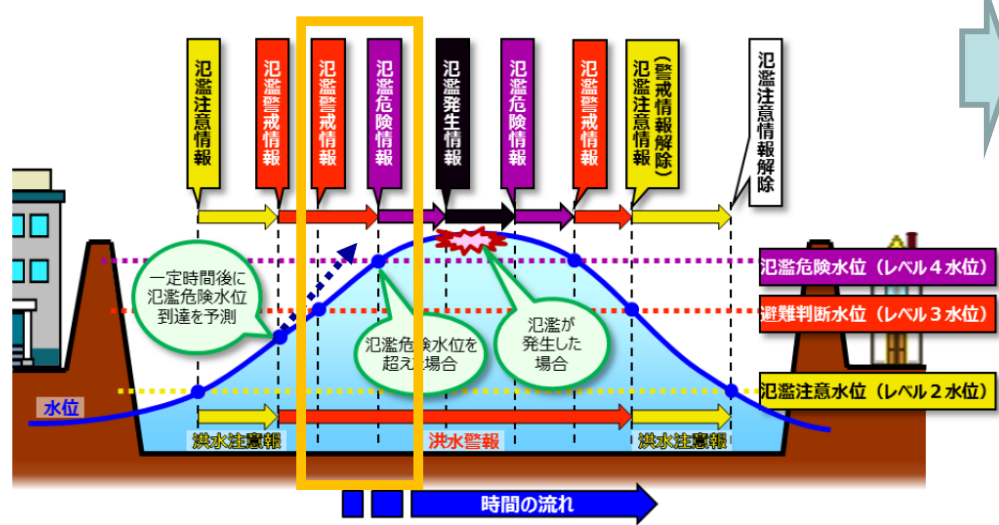
※² 氾濫危険水位を上回る所定の水位

河川区域内で最も越水・溢水の可能性が高い箇所での氾濫が始まる時の水位を、そこを受け持つ水位観測所における水位に換算した水位

- 予測に基づく氾濫危険情報は、令和4年夏から運用予定

現在

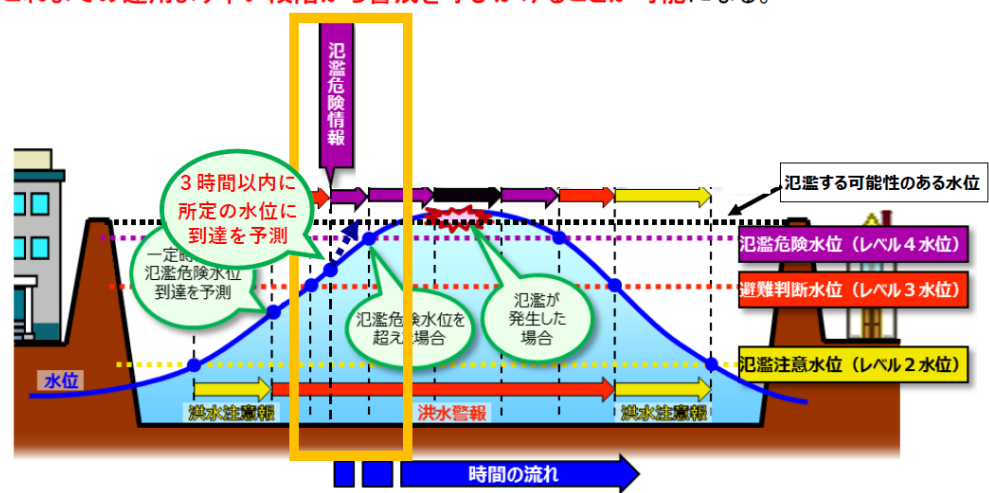
実況水位が氾濫危険水位に到達した場合に、氾濫危険情報（警戒レベル4相当；避難指示の目安）を発表



改善後

従来の運用に加えて

3時間先までの予測水位が所定の水位に到達した場合に、氾濫危険情報（警戒レベル4相当；避難指示の目安）を発表
これにより、氾濫危険水位の設定時に考慮した条件を上回る急激な水位上昇に対応し、これまでの運用より早い段階から警戒を呼びかけることが可能になる。



避難情報に関するガイドライン

【警戒レベル4】避難指示(洪水予報河川)

【警戒レベル4】避難指示の発令基準の設定例

1～7のいずれかに該当する場合に、警戒レベル4避難指示を発令することが考えられる。

- 1: 指定河川洪水予報により、A川のB水位観測所の水位が氾濫危険水位(レベル4水位)である〇〇mに到達したと発表された場合(又は当該市町村・区域で個別に定める危険水位に相当する〇〇mに到達したと確認された場合)
- 2: A川のB水位観測所の水位が氾濫危険水位(レベル4水位)である〇〇mに到達していないものの、A川のB水位観測所の水位が氾濫開始相当水位である〇〇mに到達することが予想される場合
(計算上、個別に定める危険箇所における水位が堤防天端高(又は背後地盤高)に到達することが予想される場合)
- 3: 国管理河川の洪水の危険度分布(水害リスクライン)で「氾濫危険水位の超過に相当(紫)」になった場合
- 4: 堤防に異常な漏水・侵食等が発見された場合
- 5: 〇〇ダムの管理者から、異常洪水時防災操作開始予定の通知があった場合
- 6: 警戒レベル4避難指示の発令が必要となるような強い降雨を伴う前線や台風等が、夜間から明け方に接近・通過することが予想される場合(夕刻時点で発令)
- 7: 警戒レベル4避難指示の発令が必要となるような強い降雨を伴う台風等が、立退き避難が困難となる暴風を伴い接近・通過することが予想される場合(立退き避難中に暴風が吹き始めることがないよう暴風警報の発表後速やかに発令)

※夜間・未明であっても、発令基準例1～5に該当する場合は、躊躇なく警戒レベル4避難指示を発令する。

※発令基準例6については、対象とする地域状況を勘案し、基準とするか判断すること

支川の先行氾濫による避難阻害と避難場所の確保

支川が先に氾濫して避難できなくなる

(昭和50年仁淀川洪水、平成27年鬼怒川洪水でも発生)

宇治川の氾濫により浸水深50cmが発生

仁淀川本川が氾濫危険水位に到達



1 国道33号で浸水深が50cmに到達

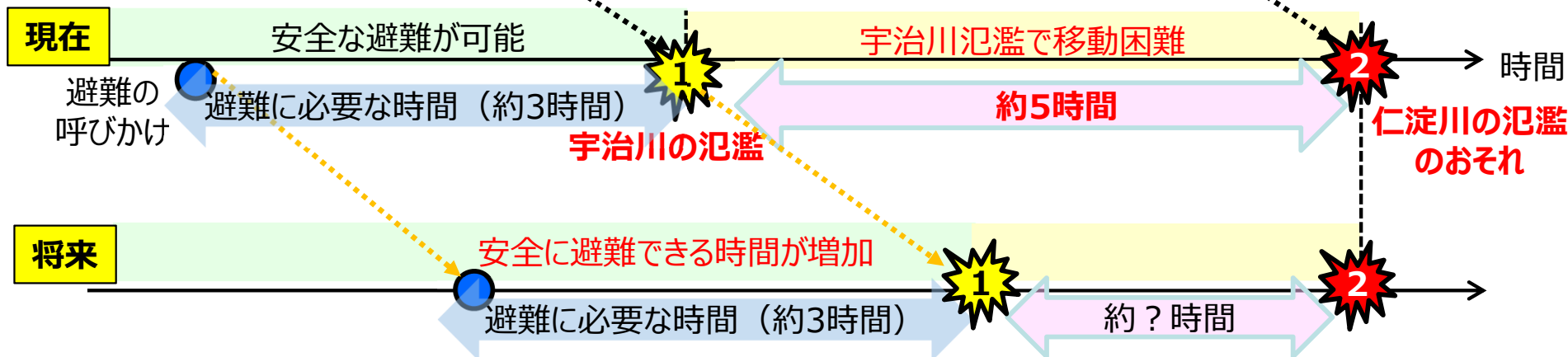
約5時間後



2 市街地全体で浸水深50cm以上

避難路が浸水して、移動困難に

仁淀川がいつ破堤してもおかしくない



浸水深以上の避難場所の確保

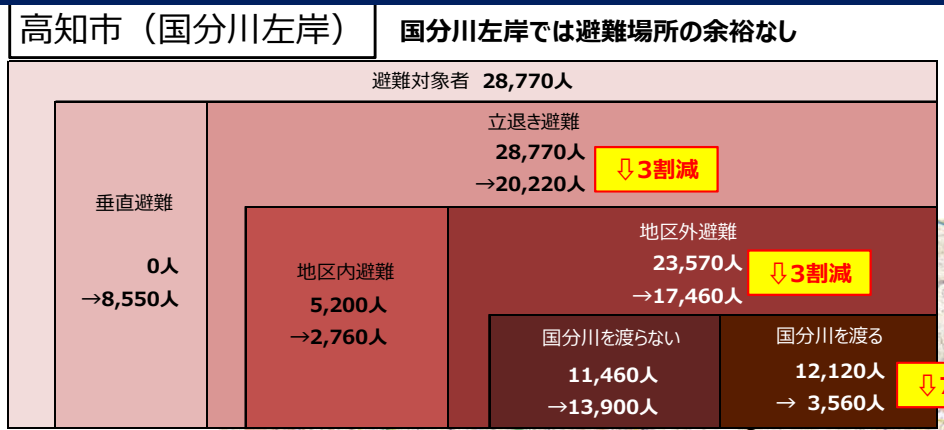
- 浸水深以上の高さの避難場所を増やすため、伊野地区自主防災会連合会と枝川地区自主防災会連合会の両会長が自ら**民間ビル所有者らと交渉**
- 伊野地区では9,100㎡、枝川地区では6,900㎡を確保 (通路等を除外した面積)
- 1名あたり3.3㎡で計算すると、**合計約4,800名が避難可能**であり、短時間で「命の危険がある人」の半数の避難場所を確保
- 今後は、アプローチ道路の確認等、避難場所毎に詳細に確認



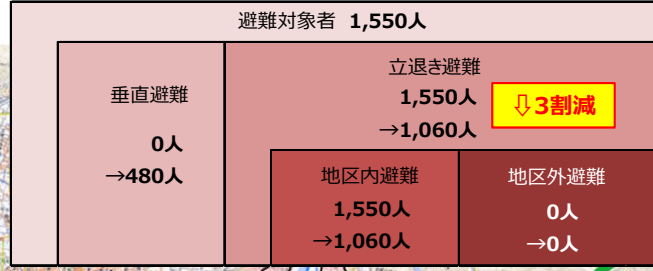
樋口会長

鍋島会長

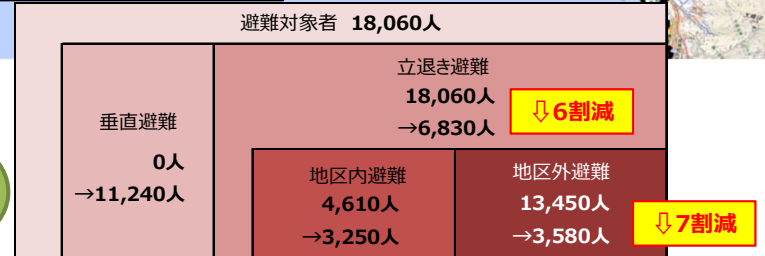
垂直避難を活用した避難の分析



【垂直避難の活用なし→ありの比較】



南国市（国分川左岸）



凡例

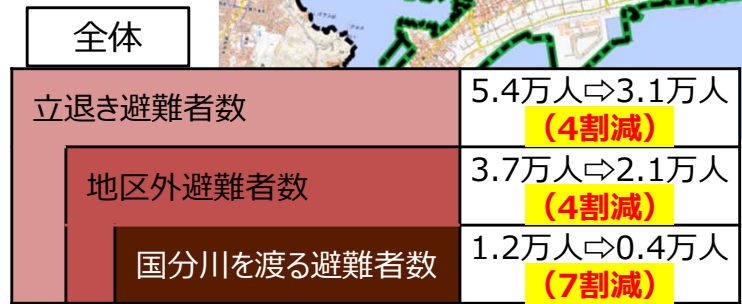
- - - 行政区界
- 家屋倒壊等氾濫想定区域

浸水深

- ~0.5m
- 0.5m~3.0m
- 3.0m~5.0m
- 5.0m~10.0m
- 10.0m~20.0m

□ 地区内で避難場所が不足し、地区外へ避難
 □ 地区内の避難場所に余裕があり、地区外から受入可能

対象洪水：想定最大規模洪水（物部川・国分川・香宗川）
 対象エリア：物部川の氾濫域・国分川左岸の氾濫域・香宗川の氾濫域



※10人単位で四捨五入しているため、合計値が各値と一致しない場合がある